

てびねり

9月号

平成20年9月1日発行
株式会社ゆしま陶助

国際子ども図書館(上野公園内)

上野公園の東京藝大音楽堂の前の信号を渡ると左側に荘厳なルネッサンス様式の建物が現れます。国立国会図書館の支部図書館で2000年に完成した日本初の児童書専門の国際子ども図書館です。こども図書館としてリニューアルされて再登場したのですが、こども図書館としてより、1906年(明治39年)に旧帝国図書館の庁舎だったものを、建築家の安藤忠雄氏が改修して蘇らせた建造物として有名になりました。

歴史的建造物の原型を最大限尊重して改修したとして、第35回BCS賞(建築業協会賞)と第15回BELCA賞(建築・設備維持保全推進協会賞)を受賞しています。



□安藤忠雄氏(昭16年生)
独学で建築を学ぶ。東大名誉教授。文化功労者。世界的に著名な建築家で表参道ヒルズを手がけました。若い時グレート安藤の名でプロボクサーだったことがあるそうです。



国立図書館ではあまり重要視されていなかった児童書ですが、近年、子供の読書離れが深刻な問題として取り上げられるようになり、上野にあった古い旧帝国図書館を改修し子供図書館として蘇らせました。「こどもの部屋」「おはなしの部屋」世界の児童書を知る部屋などにセパレートされていて、23万冊以上の世界の児童書を揃えています。裏庭は明治の頃と変わらない雰囲気を残しているといわれています。そこにはカフェテラスがあり、お茶やランチを楽しむことができます。テラスでコーヒーを飲んだり散策していると、しばし時の経つのを忘れてしまいそうです。お子さんやお孫さんを連れて行くのもおすすめです。(記 佐藤)

写真8月27日撮影 安藤忠雄氏の写真はHPから

我が家のうつわ達

親子陶芸特集のためお休みさせていただきます。

《今月の制作風景》

◇お花が映えるように...



□井口誠子さん
「シンビジウム用の鉢カバーですが大きく作らなければいけないので大変！花が映えるように落着いた雰囲気にしたいですね」

◇素敵な花器に...



□平井久和さん
「を自由に組み替えられるような花器がいいですね」

◇薄く薄く...



□小林和彦さん
「極力薄くしたいんだけど、これ以上は無理かな」

◎親子陶芸特集◎



□上原由美子さん(伯母)
□高野綜一朗さん(甥・兄)
□高野綾香さん(姪・妹)



□平石規代さん(祖母)
□平石稜人君(孫・弟)
□平石京花さん(孫・姉)

8月号でご紹介しました。



□益本英幸さん(中学3年)
小学生の頃から来ています。



□石井孝子さん
□江澤梨音さん(10歳)
姪の梨音ちゃんと一緒にです。



□鴫田亜希子さん(母)
□鴫田もこさん(長女)
夏休みの宿題に湯呑を作るの！



□山本美津子さん(祖母)
□山本大夢君(孫)
ボクは絵皿にポケモンを書くよ。



写真右から
□植田弘子さん(母)
□植田陸玖さん(長男)
□植田紗妃さん(長女)
□吉田仁美さん(母)
□吉田理紗さん(長女)

仲良しのご家族同士で来ました。



□藤田登志枝さん(母)
□藤田佳子さん(長女)
とても仲の良い母子さんです。



◇初級コースご紹介

□鈴木茂美さん
「以前少し陶芸をやったことがあり、又始めることにしました。皆さん、よろしくお願ひ致します」

◎国際子ども図書館前の噴水



◎夾竹桃の咲く
カフェテラスの庭

今月の作品

写真は実物と大きさが違う場合があります。作品の撮影とコメントは講師のみなさんをお願いしています。



酒井圭子さん マグカップ
外側と縁には辰砂を掛け、中は透明釉を掛けました。やわらかな色に仕上がりました。

酒井圭子さん マグカップ

小畑明子さん 取り皿



小畑明子さん 取り皿
大きさの異なる取り皿です。透明釉で化粧していますが、口元には溝を彫り内側は豆の形を抜きました。ユニークな作品です。

小窪猛さん 辰砂大皿



小窪猛さん 辰砂大皿
すてきな大皿が出来上がりしました。全体に辰砂釉を掛けた後、縁に刷毛でルリイラボを塗り酸化焼成した作品です。流れたルリイラボ釉が景色になっていいですね。

中岡公子さん 一輪挿し



中岡公子さん 一輪挿し
一見なまこか文鎮のように見えますが、これは、ちゃんとした一輪挿しです。白土の固まりをくり抜いて作り表面にも彫りをしました。

菅野満雄さん 大金魚鉢



菅野満雄さん 大金魚鉢
めだかが入っている見本の水槽よりかなり大きな金魚鉢です。白土で作って辰砂釉を掛け仕上げましたが、この大きさだったら少し大きな金魚でも良さそうです。

遠山恵子さん 楕円鉢



遠山恵子さん 楕円鉢
中側には白マット釉を掛け外側は弁柄、呉須、天目釉を吹き付けて黒マットにしました。形も大きさも使いやすそうです。

大木敏幸さん 湯呑



大木敏幸さん 湯呑
ロクロで作った湯呑です。形に合わせ赤鉄釉を掛け、縁は白萩でアクセントを付けました。

木村紀子さん 湯呑



木村紀子さん 湯呑
少し濃い目の呉須で描いた絵が良いですね。仕上げの透明釉ですっきり仕上がりました。正にシンプルイズベスト。

中原玲子さん ぐい呑



中原玲子さん ぐい呑
赤土で作って表面に凸凹を付け、灰ビードロ釉を掛け、還元焼成しました。思わず呑みたくくなるような素晴らしい出来です。

山田みずほさん カフェボール



山田みずほさん カフェボール
時間を掛けて彫りをしたカフェボールです。彫ったところと釉薬がとても合いますね。

一色まりさん 花入れ



一色まりさん 花入れ
白土に弁柄で色を付け透明釉を掛け、酸化焼成しました。ネコシリーズの一つです。

寺澤一雄さん 抹茶碗



寺澤一雄さん 抹茶碗
うつわ全体に釉薬を掛け上部に白萩釉を掛けた夏茶碗です。白萩が泡のように出ていて洗練された抹茶碗になりました。

奥田智美さん ビアタン



奥田智美さん ビアタン
白土をベースにしたスリムなビアタンフラーです。織部釉の色も濃淡がうまく出て良い仕上がりにです。

中河政子さん 四方皿



中河政子さん 四方皿
八寸近い大きさの四方皿です。無地に近い皿はむずかしいのですが、全体に紅志野釉が上手に掛けられています。

馬上信一さん 一輪挿し



馬上信一さん 一輪挿し
赤土を使い丸く彫りをした上に、白萩を掛け上部は辰砂を掛けた作品です。口元の赤土がポイント。

宇都宮裕さん 板皿



宇都宮裕さん 板皿
鮎皿サイズのルリ釉の掛かった長板皿です。表面が梅花皮(かいらぎ)風に仕上がりました。

来年の干支



吉田絵美講師が制作した来年の干支「牛」の置物です。ユーモラスな表情がいいですね。今年も残り4ヶ月。干支の置物に挑戦してみましよう。

土鍋の季節がやってきました



土鍋は出来上がりまでに時間がかかります。早めに準備しましょう。この土鍋は加藤美代子さんの作品です。

見た事・聞いた事・読んだ事 北京オリンピックを観て

北京オリンピックは、時差がほとんどないお隣の国だったので、テレビ観戦にはお誘い向きでした。オリンピックといえば、陸上競技と決めつけるのは古いかも知れませんが、ジャマイカのポルト選手の規格外の圧倒的な走り方には度肝を抜かれました。
 ■オリンピックは参加することに意義があるといいますが、日本の選手はメダルに手が届かなかった選手といえども、殆どの競技で予選を勝ち抜いて出かけたのだし、送り出したのですからメダル無しでも、堂々と帰って来れば良いと思います。■それにしても、日本は聞いたこともないような、マイナーな競技にも必ず選手を送り込んで行くのは驚きました。そして、選手について行く役員やコーチの人数の何と多いことか。まだまだ豊かな日本を実感したオリンピックでした。
 ■しかし、世界的にはマイナーな競技で、次のオリンピックでは消えるソフトボールの活躍は目を眩るものがありました。



決勝戦で力投する上野由岐子投手 (朝日新聞速報版から)

その中で2日間で3試合投げ続けた、上野由岐子投手(ルネサス高崎所属)の活躍は圧巻でした。■日本のソフトボールは小・中・高の男女とも盛んに行われていますが、オリンピックは女子だけです。大学や実業団でも男女ともリーグ戦があり、その底辺はかなり広いといえますが、金メダルに輝いた皆さんは各実業団を中心に選ばれたエリート達。
 ■上野選手が所属しているルネサス高崎(旧日立高崎工場)には、前回まで監督だった宇津木妙子や宇津木麗華(ルネサス高崎監督)や決勝戦で先取点を上げた三科、キャッチャー峰が居り、他は日立ソフトウエアの選手が殆どなので、オリンピックチームは日立連合チームだったとも言えます。■プロゴルファーの上田桃子がバレーボールやソフトボールなどを一生懸命やっている人達に、金にもならないことをよくやっていること擲論したことがありましたが、全てお金で価値を計る感のある日本の若者に、ソフトボールは大きな感動を与えた数少ない競技の一つだったことは間違いありません。(佐藤)